

第23回大学教育研究フォーラム
個人研究口頭発表①

初年次学生における成長要因の可視化に 関する研究 -多面的な分析手法を通じて-

2017年3月20日(月) 10:00～10:20

杉原亨(関東学院大学高等教育研究・開発センター)・岡田佐織(ベネッセ教育総合研究所)・
奈良堂史(関東学院大学高等教育研究・開発センター)・佐藤昭宏(ベネッセ教育総合研究所)・
山田昭子(関東学院大学高等教育研究・開発センター)・松尾洋希(ベネッセi-キャリア)・
影山裕介(ベネッセi-キャリア)

1. 研究の背景・目的

研究背景・目的

□全学的なFDの取組みを着実に実行しているものの、個別学生に着目すると、入学時点での多様化に加え、入学後の経験や学習意欲・態度の違いにより成長の差が見られる状況である。

□学生の成長プロセス(学習面・課外活動など)の可視化を試み、その結果を実践に反映して、入学後早期に学生を成長させるために、ベネッセグループと共同研究を開始した。

□本日の発表では、共同研究の一部である、**定量的なアセスメント調査**と**定性的なインタビュー調査**（**第一次のみ**）から見えてきた、学生の成長プロセスの可視化に関する研究結果について報告する。

2. アセスメントデータから見た現状分析

「学ぶ意欲」に着目（初期仮説）

□研究会で学生の成長要因について、メンバーの教育現場での経験や、全国のアセスメントデータから傾向を踏まえて議論を重ねた結果、「意欲（特に学習面）」が重要な鍵となるのではないかという共通認識に至った。

⇒学生の学ぶ意欲の実態を探るために、アセスメントデータで分析を試みた。

アセスメントデータ分析①(学びへの意識に着目)

- 相対的に「学びへの心構え」「学びへの見通し」が低い
- 学部ごとに傾向が異なる(資格系学部で高い)

■表 1-1 「学びへの意識」についての分析結果

	全学平均	学部別									
		文系A	文系B	文系C	理系A	理系B	資格系A	文系D	資格系B	文系E	資格系C
大学で学ぶ価値	73.2	69.4	70.1	70.1	72.5	81.0	84.3	71.2	84.3	74.6	80.0
学びへのコミット	74.6	71.9	70.8	70.8	73.9	82.5	83.3	72.4	84.2	75.2	80.1
学びへの心構え	65.9	66.3	63.8	63.8	64.7	68.1	70.7	65.9	70.1	66.0	63.5
学びの見通し	62.9	59.7	60.8	60.8	63.3	66.4	71.1	61.9	71.2	63.5	67.4
学び・経験への積極性	73.6	70.9	73.0	73.0	71.4	78.4	82.1	73.0	83.2	76.0	75.3

■ : 5項目のうち、全学平均が相対的に低い数値

■ : 学部平均が相対的に高い数値 (達成率80%以上)

注) 数値は達成率。(尺度得点÷満点) × 100で算出。 * 2015年4月、1年生を対象に実施 (n=2,574)。

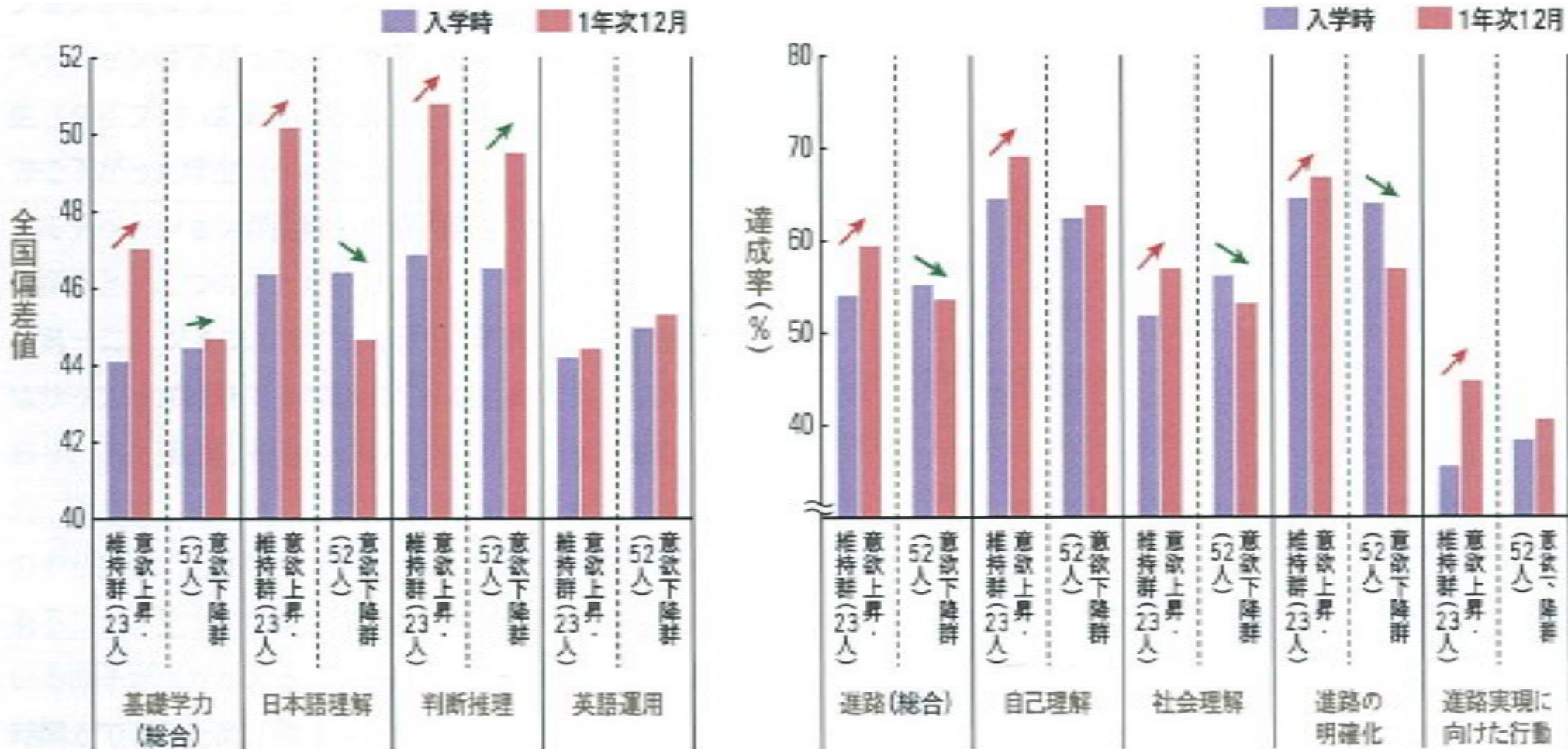
アセスメントデータ分析②(1年生4月から12月の変化)

□「学びへの意識」が向上した学生の特徴を明らかにするために、2015年度秋学期選択科目「KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ」の受講生で、1年生4月と12月で比較可能な学生(n=75)を対象に、「学びへの意識」が向上した(変化なし)の学生群(n=23)と、低下した学生群(n=52)でアセスメントによる比較分析を行った。

- ✓ 1年生4月: 大学生基礎カレポートⅠ 新入生版
- ✓ 1年生12月: 大学生基礎カレポートⅡ 在學生版
(ベネッセi-キャリア開発)

□ 学びへの意識が向上した学生は「基礎学力(日本語理解・判断推理)」 「進路に対する意識と行動」が上昇している

引用: 関東学院大学、ベネッセ教育総合研究所、ベネッセi-キャリア(2017)『学生の成長プロセスを可視化する実践的研究』P6 <http://berd.benesse.jp/feature/focus/17-report/>



データから考察した初年次で成長する学生像

- 学びへの意識と基礎学力（日本語理解・判断推理）の伸びの関連性から、レポート作成の過程で文献などの情報を収集しながら意見をまとめていくなど、「大学型の学び」への適応がみられると考えられる。
- 学びへの意識と進路に対する意識・行動の伸びの関連性から、学びへの意識が向上した学生は自己理解や社会理解を通じてキャリアビジョンを明確にし、実現のための行動ができていると考えられる。

<初年次で成長する学生像>

大学における学びの意義を理解した上で、将来目標を設定し、やるべきことを理解し、行動に移している。

⇒ 上記学生の実態を解明するためインタビューを行った。

3. 第一次インタビュー調査の 研究プロセス・手法

第一次学生インタビュー概要

- 目的: 初年次で成長しているKGU学生の実態把握
- 対象: 2015年度秋学期「KGUキャリアデザイン基礎 I」受講生の内、当時の1年生75人。(学内における「人に関する研究倫理審査」承認済み)

【インタビュー学生の抽出方法】

1. アセスメントによる成長の確認

- ・2015年4月と12月段階でのアセスメント結果の伸びを確認
 - 2015年4月「キャリアデザイン入門」で1年生全員に「大学生基礎力レポート I」を実施。
 - 2015年12月「キャリアデザイン基礎 I」で受講生対象(1年生人)に「大学生基礎力レポート II」を実施
- ⇒基礎力 I と II を受検した75名の結果を次の観点(学生像)で分析し伸びを確認した
「①大学への適応、②学びの面白さ、③インテンシブ(集中、つらくても頑張る)、④目的意識・成長への道筋、⑤授業・カリキュラムへの目的理解」

2. キャリアデザイン基礎 I のミニレポートのチェック

- ・授業内の各回のミニレポートをチェックし、優れている学生を特定

3. キャリアデザイン基礎 I 担当教員による観察・所感

- ・担当教員による受講生の授業態度、グループワークへの取り組みなどの評価・観察結果の共有

⇒上記3つの観点により、20名の成長していると見込まれる学生を抽出

【インタビュー概要】

- 実施: 2016年6月～7月
- 人数13人(人間環境学部3人、栄養学部6人、教育学部2人、経営学部2人)
- インタビュー方式
 - ・(質問者)2人対(対象者)1人に半構造化インタビューを実施
 - ・インタビュー時間は「90分」
 - ・主なインタビュー項目
 - モチベーションの変化(学習面・課外活動)
 - 進学動機
 - 学習の状況、熱心に取り組んでいる授業、良い先生
 - 将来のキャリア
 - 人間関係 など

インタビュー時の工夫

【KGU-BC共同研究】 インタビューシート

氏名:	学部:	学科:
出身高校:	都道府県:	

1. 導入・アイスブレイク (5分)

- ①学籍番号・お名前の確認 ⇒ ご挨拶・自己紹介
⇒ インタビュアー2名ともに自己紹介
- ②同意書の確認・協力依頼書の確認
⇒ 必ずサインをもらう。保管の指示。
- ③お約束事の確認
⇒ ブラウケースに挟んだ用紙「インタビューにあたってのお約束」を見せる。答えたくないことは、無理に回答しなくて良い旨を伝える。
- ④本日の流れ (聞きたいこと)
⇒ ブラウケースに挟んだ用紙「本日も伺いたいこと」を見せる。
⇒ インタビュアーの主旨説明 (1) キャリアデザイン入門・基礎Ⅰ受講者から無作為に抽出した。(2) 大学教育を良くするための調査
- ⑤録音の許可

2. モチベーションチャートの記入と質疑応答 (5分)

※まずは、インタビューにあたって、「意欲(モチベーション)」をキーワードに、あなたの学びや成長について伺います。

赤字: 「勉強、学習」に対する意欲

- ①変化したとき、何があったのか? 誰が関わっていたのか
- ②高校までの学び方と大学での学び方では変化や戸惑いがあったか?
- 青字: 「勉強、学習以外の活動」(なんでも可) に対する意欲**
- ③意欲が高まった結果、行動の何が変わったのか? 何が身についたか? 変化したか?
- ④成長・変化を可能にした、環境要因と本人要因を確認
- ⑤「意欲」・「曲線の上がり下がり」は何を指しているのか?

3. インタビュー (40分) 赤字: インタビュアーが確認すること 青字: 質問の意図 黒字: 覚え書き

Q1: 進学先として、関東学院大学を選んだ理由を教えてください。

※進学理由を帳票で確認

※この専攻を選んだ理由(事前シート04)と合わせて確認

Q2: 他に受験した大学があれば、教えてください。

※大学志望度を帳票で確認

Q3: 大学入学前と入学後で、大学へのイメージが変わりましたか? 変わった場合は、その内容をお聞かせください。

※「イメージ変化」を帳票で確認

入学前、大学でどんなことをしたいと思っていましたか? それは入学後実現できていますか?

Q4: 将来、就きたいと思っている仕事があれば、教えてください(迷っているもの、でも可)

※学部・学科志望度を帳票で確認 ※どんなライフプランを描いているか、授業レポートで確認

※進路希望とこだわり度: 帳票で確認

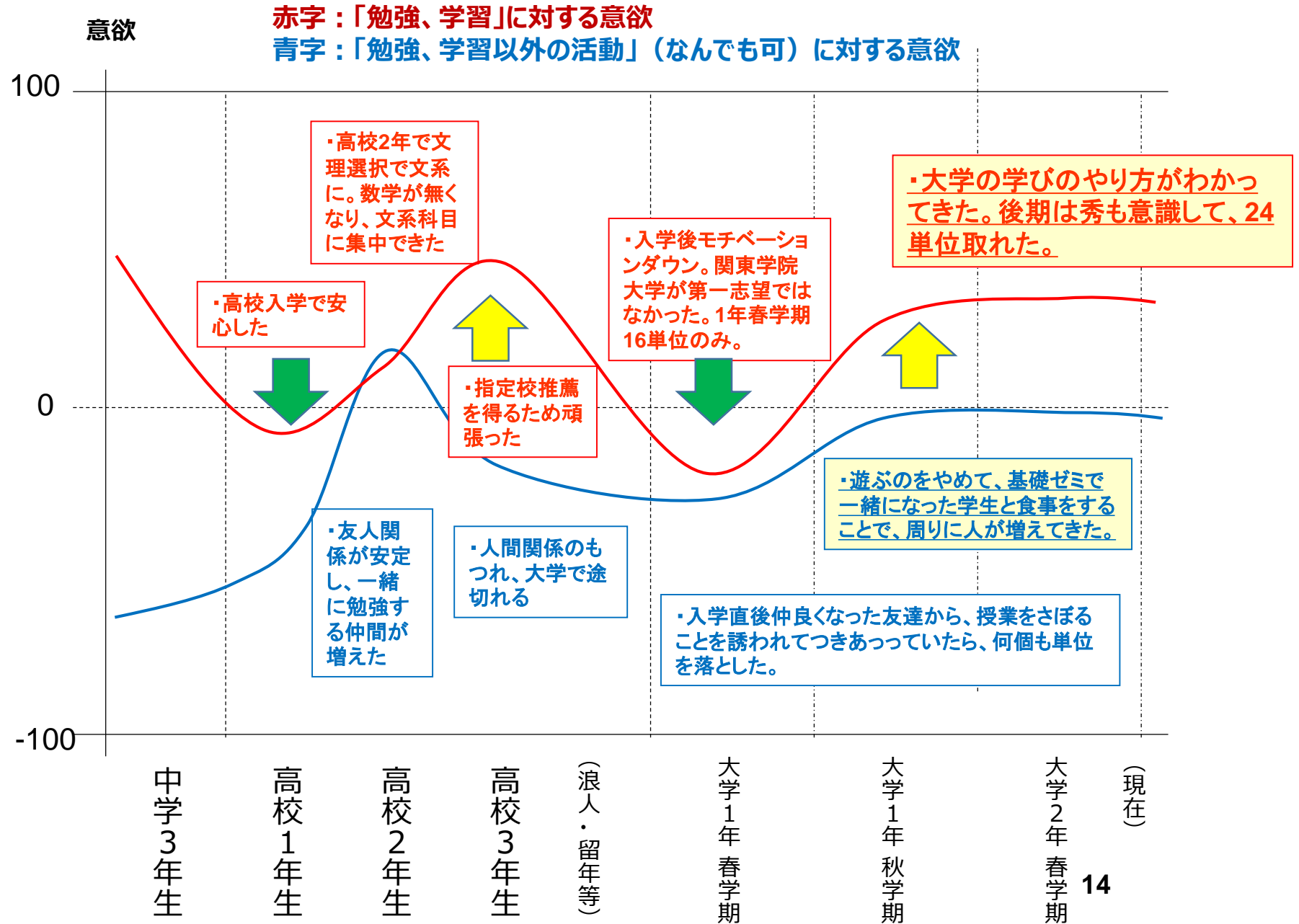
なぜその仕事に就きたいと思ったのか? (きっかけと理由)

⑥ 実現のために、具体的に何かしていることはあるか? こんな力を身に付けたい、というものはあるか?

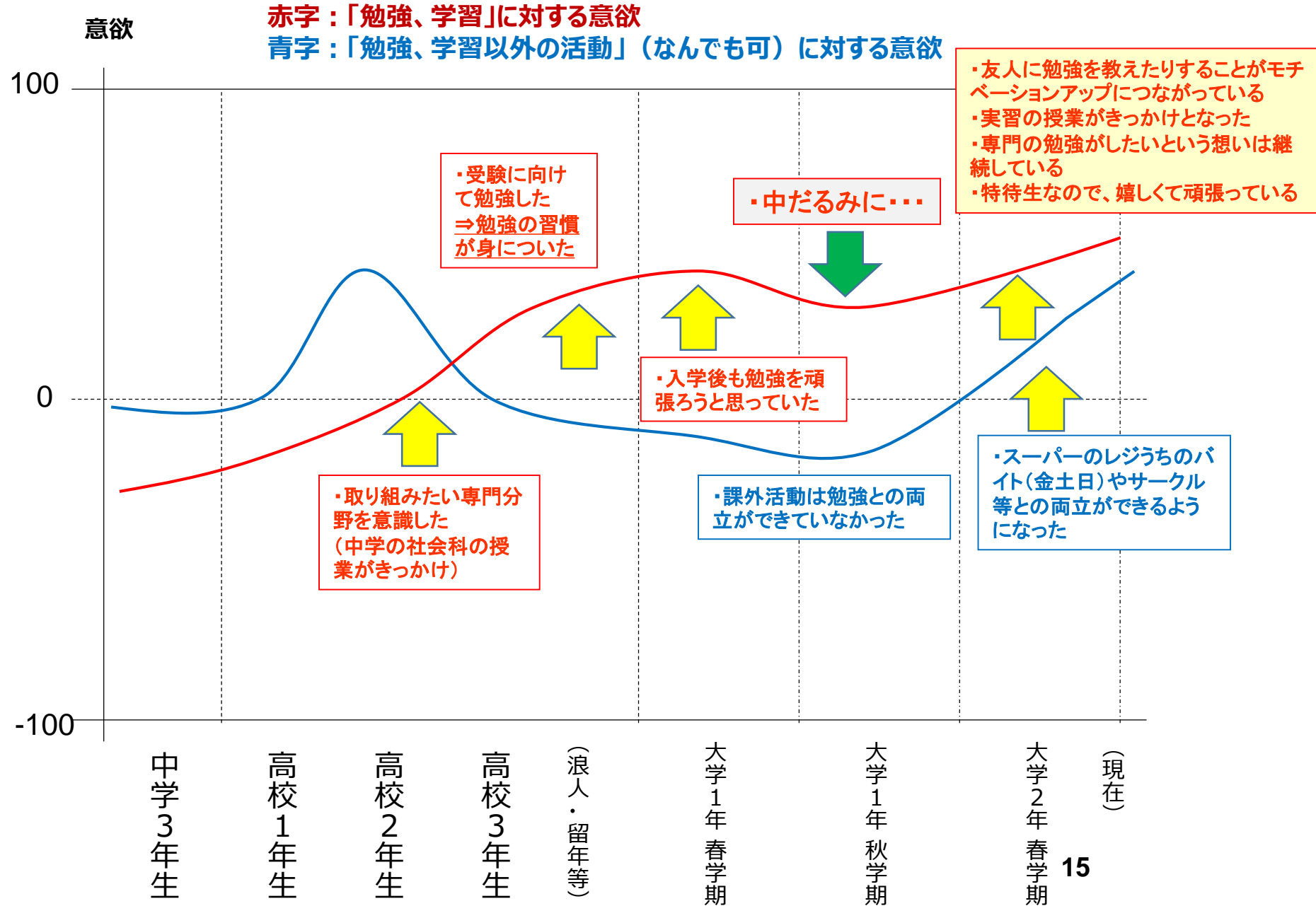
- (左図) 研究メンバーが分担して実施するため、そのまま読み上げられる形で質問内容を記載し、その下に「**インタビューが確認すべきこと**」(赤字)、「**質問の意図**」(青字)、「**覚え書き**」(黒字)を付記した。

- (次頁) モチベーション・チャート。インタビューの冒頭で、学習と学習以外の活動に対する自分のモチベーションの変遷を学生に図示してもらった。

意欲曲線：これまでの「意欲」の変化をグラフにしてください。



意欲曲線：これまでの「意欲」の変化をグラフにしてください。



4. インタビュー調査から見えてきた成長要因

インタビューから見えてきた 成長の主なきっかけ(トリガー)

□学習のフィードバック・サポートの重要性

- 提出課題への手厚いレスポンスや、学習支援の充実によるモチベーションの向上

□大学型の学びへのスムーズな移行への対応

- 受験勉強と違い、能動的に日々学ぶ必要がありレポート作成など初めての経験も多い

□困難を乗り越える・役割を任された経験

- 部活や学園祭、受験勉強などの経験が成長の鍵となっている。

インタビューから見えてきた成長プロセスの要素

トリガー = 成長のきっかけ

- 自己認識を深める機会
(何かに打ち込む、価値観の対立を経験する、など)
- 人生の意味を考える契機
(友人の病気、身近な人の死など)
- 親の働く姿、生き方・考え方に触れる機会
- 困難を乗り越えた経験
- 役割を任された経験
(部活・受験・アルバイトなど)
- 困難なときに支えてくれる人がいた
(友人・親・先生など)
- すごいと思える人が身近にいた
(友人・先輩・親など)
- 学習をサポートしてくれる人がいた
(学校・塾・支援室の先生など)
- よい授業、先生との出会い
(学ぶ楽しさ、科目間のつながりを見せてくれた)
- 高校と大学の学習スタイルの違いを認識する機会
(テスト・レポート、失敗経験など)

レディネス = 成長のための土台(能力要素)

※同じ場においても、「成長」に至るかどうかの違いを生む要因

自己の確立

- 自己理解ができている(得意、好き、価値観など)
- ロールモデルやキャリアビジョンの存在

やり抜く力・ストレス耐性

- 失敗を恐れず挑戦する
- 困難に直面してもくじけない
(自信・しなやかさ・粘り強さ)

対人関係力・柔軟性・コミュニケーション力

- 他者と一緒に学べる
- 感謝できる
- 他者から刺激や情報を得る
- 助言や忠告を受け止められる

内省力・メタ認知力・語彙力・言語化力

- PDCAを回すことができる
- 深く学ぶことができる、経験から学べる

学習スキル・統合的に学ぶ楽しさの理解

- 問いを立てて情報を集めて論じる、という大学型の学びに適應できる

「成長」に向かう姿 (成長の定義)

中・長期の目標設定

- 将来、こうなりたいという目標がある

行動の質と量

焦点化

- 伸ばすべき力を意識している
- 何かに挑戦している、自分に意識的に負荷をかけている

行動

- 目標の達成に向けて、具体的な行動がある
- 負荷の高い行動を継続できている

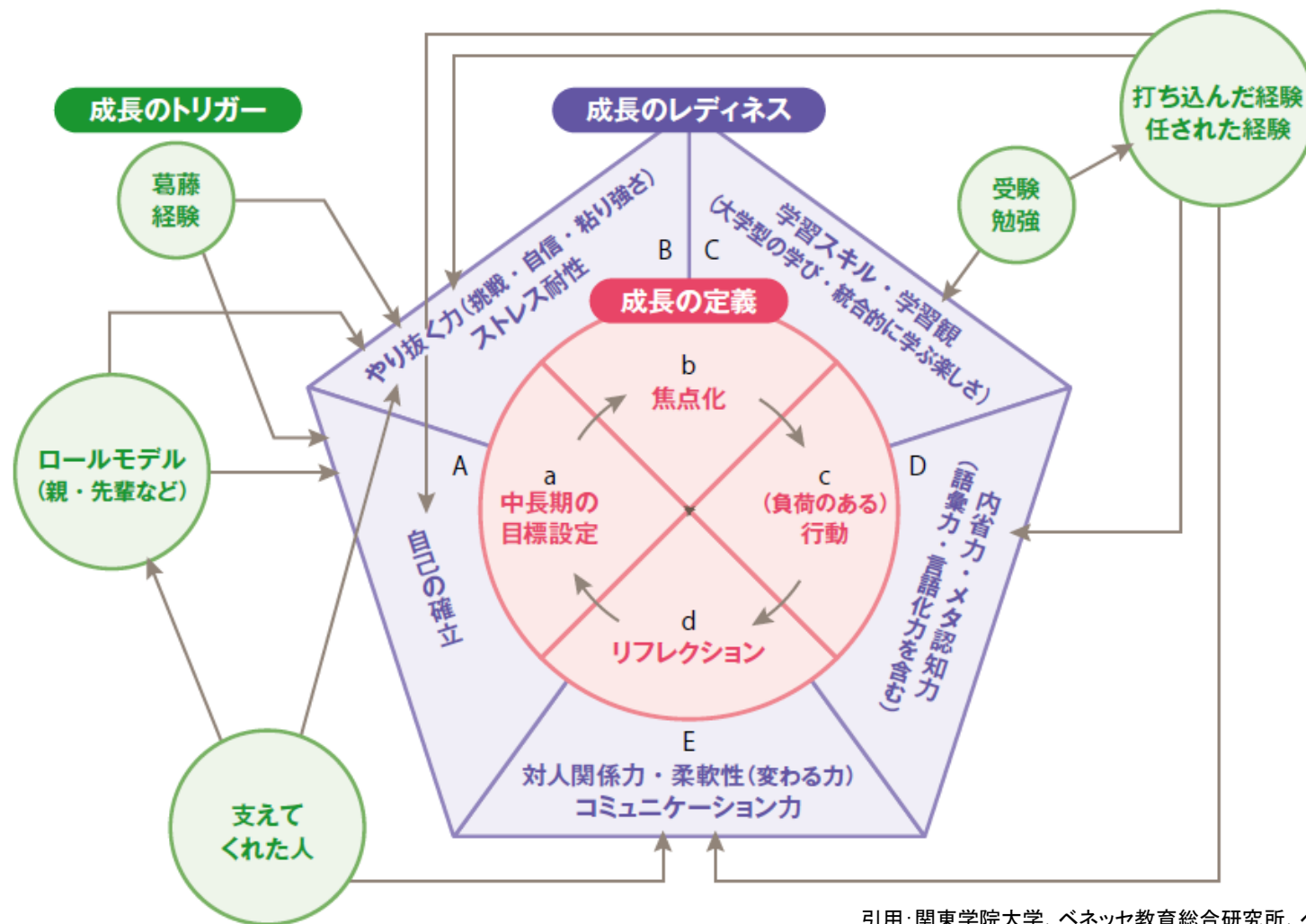
リフレクション

(言語化・意味づけ)

- 自分の成長や、経験から何を学んだかを語る事ができる

インタビューから見えてきた 成長プロセスの可視化(構造図)

■ 図2-2 「成長」プロセスに共通する要素の構造図



□ 成長学生へのインタビューを通じて、トリガー(きっかけ)とレディネスが密接に関連し、成長に向けた活動(サイクル化)へつながっていることが共通点として浮かび上がった。

ご清聴ありがとうございました。

本研究については、本日の参加者企画セッション
「学生の成長を可視化し、教育の質保証へつなげる
ために必要なこと」で詳細を取り上げます。

会場: 吉田南総合館北棟 共北31

時間 13:20~15:50

<御質問など>

杉原 亨

関東学院大学 高等教育研究・開発センター 専任講師

sugihara@kanto-gakuin.ac.jp

<共同研究の報告書> (本研究発表の詳細)

関東学院大学、ベネッセ教育総合研究所、ベネッセi-キャリア(2017)

『学生の成長プロセスを可視化する実践的研究』

<http://berd.benesse.jp/featuere/focus/17-report/>